

子どもの悪癖とひがみ

天野誠齋

悪癖矯正の呼吸

□味ふべき格言

不良少年となつたり、又不良少女となる、この家庭を見ますと、多くは家庭の罪で、夫れに陥らしむる動機が茲に御座います。

けれども是れを、單に家庭の罪、家庭の不取締にのみ歸する事は出来ません。

『弱き身體は、また其の心靈を弱くす、兒童は弱きが故に悪しきなり、強からしむれば、以つて善き者となり』

是れはルーソーの述べられた詞ですが、是れこそ兒童の悪癖矯正について、味ふべき格言であると思ひます、少年

少女の心の悪い、所謂

「不良」

の二字を冠せられますものゝ體格を検査して見たら、必ず不健康が伴ふて居るに信じます、體質が人並に發育しませんで、虚弱であるから、遂に心も悪くなつて、ルーソーの述べられた意味に陥ることを考へます、詰り心の悪いものは、矢張り身體にも缺陷があつて、虚弱不健康に云ふ順序になつて參ります。

□體質上の缺陷

夫れですから、子供が亂暴を働くに、又非常に強情で親の云ふ事や、教師の云ふ事なども用ゐないやうな、手のつけられない子供があらしても、現はれた行爲にのみ重

きを置き、叱りつけましたところで、心の改まるものではありません。

宜しく親たるものは、この子供の心意に立入つて、深く考へてやらなければならぬのです。

夫れを唯、頭から叱り飛ばしたところで、此の悪癖を矯正す譯には参りません。

況してや意志の力の極めて弱い子供の事です。其の弱い意志をますます弱くさせるのは、體質の上に必ず缺陷があるので、生理上から仔細に検査されましたら、爾う云ふ子供の身體には、何處にか缺點がないと申されませんが、例へば非常に神経質で、神経が過敏になつて居りますか、又神経の過敏になるべき他に病原がありますか、病原が去つても恢復期の處置が悪いので、神経衰弱になつたとか、耳が悪いとか、鼻が悪いとか、内臓に執れにか故障がありますとか、素人には少しも其の不完全な點を見出されませんが、其の道の専門家が検査しましたら、之れを發見されることありませう、即ち意志の弱いものも、體質の缺陷のあるため、夫れから強情にもなり、亂暴者にもな

つて、親の手にあまる事になりますと、斷言してもよいかと存じます。

□小言の効力がない

子供が、親の命令を用るませんで、暴れます、爾うする直ぐに鐵拳が飛んで往きます、子供は鐵拳に驚いて一時は鳥渡亂暴をやめますが、親の眼を離れれば、また直ぐに暴れ出します、斯う云ふ風にして仕舞つては決して小言の効力が無いので御座います。

子供は一度教へますと、其時は守つても、又直きに忘れて仕舞ひます、之れは子供時代は感情一點張りで、意志の力が極めて弱いのですから、例へば身體に或る缺陷がないとしましても、一度教へたのを後にまでも、夫れを守らせるのは不可能な事です。

善い事が、悪い事が、之れを仕て良い事が、或は之れを仕て悪い事が、その判断を意志とするやうな慣習をつけさせますのは、之れは親にして、兒に盡す當然の教育法であると思ひます。

□ 教誨師の實話

或る教誨師から斯ういふお話しを承りました。

此のお方は北海道の監獄に、永い間教誨師をして居られました。ナニシロ殘忍酷薄なる罪人で御座いますし人の命を屠ることなどは、犬猫でも扱ふのと、同じやうに心得て居るやうなものですから、なか／＼之れを善道に導くには、教誨の方法で、教材話題何一つ缺けてはなりません。

處が此の教誨師は囚人を集めて、諄々として教へを説くに當り、

『斯ういふ寒い／＼雪國へ来て居て、故郷の便りさへ少なくて、寂しく暮して居るのは、犯した罪とは言ひながら、

如何にも氣の毒に思ふ、噫、故郷に居る父母や、又は妻子の身の上は何うであらうか、那の悴は心から言ひながら、今頃は定めし苦しんで居るであらうと、親は心中に泣いて居らう、又妻子の胸には片時も良人たり、父たる人の慈なきことを祈らぬ事はあるまい、ア、實に熱き涙に泣かぬ日はあるまい』

と云ふやうな、感情に訴へた教誨をしますと、鬼のやうな罪人でも、直に涙をホロ／＼こぼして泣いて居るさうです。夫れでは斯ういふ教誨を聽いて、全く過ちを悔ひ改めましかと云ふに、爾うではないさうです、ホンの之れは一時の現象で感情に動かされたのです。

ソコで教誨師は考へられたさうです、斯ういふ教誨の仕方は何ん等の効力もない、過ちを悔ひ改ため、善良なる道に進ませますには、意志を鞏固にさせ、例令ば如何なる誘惑がありましても、其の誘惑に打ち勝ち、如何なる苦しい境遇でも其の境遇に打ち勝つやうにさせる方針を取らなければならぬと云ふお考へになつて、教誨の方針を一變されたさうであります。

私は此のお咄しを承りまして、

『成程此の教誨師の被仰ることは眞理である』
と思ひました。

此の呼吸は矢張り、兒女の悪癖を矯正しますには、肝腎な方法で、感情に訴へて教へるよりは、意志を鞏固にするやうに教へ、善惡の判断を意志でするやうにし、おい／＼

夫れが習慣になるやうにしなければならぬ事と思ひます。

子供のひがみ根生と矯正の手加減

□朝顔の蔓

植物でも、何んでも同じ事、ものには天性と云ふものがあります、朝顔の蔓のやうなものでさへ、時計の針と反對に、左に捲く性質がありますから、試に繩で結び、之れを右巻きにしやうとしても、いつか夫れが左巻きにならうくくする激しい運動のために、一種ひねくれた妙な蔓の形になつて仕舞ひます。

之れを見ましても、まだ人にならんとして、この半途にある兒童の教育は、矢張りこの天性を損ふてはなりません。

□少しづつ矯めよ

若し生れたばかりの小兒を、初めから干渉なしに育てるに、唯先天性の方にばかり向つて往きます。

教育と云ふのは、少し片苦しくなりますが、詰り親々の注意は、此のわるい方面の先天性を、時に少しづつ矯め直す位が程度でありまして、親々が自分の性質から割出した、夫れにあてはめやうとするなり、或は又子供の性質を、全くぶち壊して、親々の思ひ通りにすると云ふことは、非常に宜しくない事です。

若しも斯う云ふ考へをもつて、子供を教育するといふ親々がありますなら、その親々の考へは大層な考へ違ひであると思ひます、何んの事はない、今申した朝顔の蔓の自然性を矯めると同じやうな結果になりますから、先天性をいたはると云ふことが、非常に大切であります。

□子供心にも不愉快を感ず

取分け子供の遊戯は危険でない限りあまり、家庭に故障の無い限り、したい事を十分にさせる事にしたいと思ひます、子供の先天性として非常に變化を好み、與へられたものが如何に氣に入つても、長時間遊ぶことは、到底堪えられん事です。

茲においてか自づミ手が大人の室にまで及ぶ、果は日常の家具、器具類に及び、遂には盆栽を損じたり、床の置物を傷めたり、手當り次第なお惡戯いたづらをして喜びます。

ソコで之れを發見した、母親なり、召使ひなり、突然飛出して

『飛んでもない事をされましたネ、それはお父さまの大切なものですよ』

ミでも云はうものなら、子供は定つて泣出し、今まで愉快に遊んで居た興味は破られ、子供に取つては此上の不愉快はありますまい。

□遂に僻み根生を起す

一體日本の家庭では、子供の喜びさうなものを、子供の手の届き易い處へ飾つておき、若し誤つて子供が、夫れを損こわめでもしやうものなら

『それは不可ん』

『之れも不可ぬ』

ミ吐つて取揚げると云ふ有様です、夫れ故子供心にも

『不平ミ怨恨』

とが絶えず残るやうになりまじやう。

のみならず此の不平ミ怨恨ミが、知らず識らずの間に遂には、ひねくれた、ひがみ根生になり、丁度朝顔の蔓が自然性をためられたと同じやうになるのです。

□親の罪が深い

自分の家にある、家具器具を子供等が自分のものミ解して、夫れを損じたり、破つたりするのは致し方がありません、甚しいことを篤ない限り、之れは成るべく叱らないやうに致さねばなるまいと思ひます。

一つ物を何時までも持ち續くことの出来ない子供が、夫れを破損して、更に其の變化を見て楽しむといふミころに殊に子供の向上心、進歩心、若くは其の好奇心があるので

す。
子供に好奇心のあるのは、丁度哲學を究むる學者に、疑問が起つて、其處に新しい研究の起るのミ、同一の事ですから、物を破損する子供を、譯なしに叱るといふことは

禁物です。

若しも破損されて悪いやうなものなら、子供の眼のつくところ、其の手の届くところへ置かぬに限ります。此の注意を缺いて、夫れで子供の罪のみ責むるのは、責める者の罪が深いのです。

口しつけ方の秘訣

夫れから子供に持たせて悪いものが、子供の手に入つて、何うしても夫れを放さぬとき、何にも代りとなるべきものを與へずに、遮二無二もぎさらうとするやうな親達もありますが、代りの物を與へずにとり取るといふことは矢張り子供の先天性を害します。先天性を害す、害さぬ云ふところに、

『子供のしつけ方の一大秘訣が含まれて居るやうに思はれます』

是れも子供の先天性とでも申しませうか、貴人の家に生れた女兒でも、女兒と云ふ、その先天性のいたすところであるものを見えまして、少し物心のつく頃から子守遊びを

始めます。

子守を申せば、卑しい少女のすること、多くは召使女のする事ですから、貴人の女兒が、長じて此の必要を生ずる譯ありません。

また爾ういふ遊び方を、左まで教えませんところの女子供が、自づと子守遊びをして、愉快に子守唄など唄ひますのも、畢竟其の先天性から來るのです。

即ち生れながらにして、女は産んだ子供をさだてるもの、已に自覺せる性質が、此の行爲をさせるのでありましやう、此れを見ましても、人の先天性ぐらゐ、大切にしなければならぬものはなく、また之れを損うてはならぬと思ひます。

朝顔の蔓にたごへた通り、子供の先天性を、損はぬと云ふことは、男の兒でも、女の子でも同じ事で、之れに對する手加減が、即ち親の責任ある教育ではあらうと思ひます。